

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 落合 康浩

研究課題		地域資源を有効利用する地域開発の実情と課題に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	今日、各地における地域開発の施策は地域の個性について大きく配慮するものになってきている。地域の個性の中でもその地域を特徴付ける環境や景観、産業、文化といったものがいわゆる地域資源であり、具体的な開発計画の中でもその有効活用が謳われることは多い。むろん、そうした地域資源を有効に利用する地域づくりは大きな意義を持つが、それだけにその可能性や利用実態について検証することは重要である。そこで本研究は、地域資源についてその価値を評価するとともに、それらが地域開発の政策の中で適正に利用されているか否かの実情について調査・分析し、問題点や課題について考察することを目的とする。
	研究の結果	パキスタンの最北部に位置するゴジャール地区は、カラコラム・パミールの山岳辺境の地にあるが、アガ・ハーン財団が運営するNPOなどによる支援や幹線道路の整備によって1990年代頃から農村の生業・生活様式の変化が進み、外国人観光客が増加した地域である。2010年代前半に自然災害にともなう幹線道路の寸断によって、農村や観光に関わる開発は一時停滞していたものの、幹線道路が新たに開通しパキスタン中央部からのアクセスが飛躍的に向上したことで、2010年代後半以降、さらに観光開発が大きく進展してきている。これにはパキスタン国内の経済が好調であることも関係しており、この地域の観光隆盛を支えているのは、急激に増加したパンジャブなど国内都市部からの観光客である。湖などの観光スポットや幹線道路沿いにはホテルなどの観光施設が新たに多数立地するようになり、地域住民のうち若年層の多くは観光関連産業に従事するようになってきている。そのため、従来はゴジャール地区の中心的な生業であった農牧業を継承することが難しくなりつつある。
	研究の考察・反省	ゴジャール地区における伝統的な牧畜形態は、夏に高所にある牧草地に家畜を移動させて放牧をおこなう、いわゆる移牧の形態をとってきた。自給的なこの牧畜は長期に放牧地に滞在し重労働を強いられるものでありながら金銭的な収入に結びつかないこともあり、継承者が減少し、村によっては夏の放牧地経営が消滅寸前の状況となっている。一方で家畜を夏の放牧地に移動させないのであれば観光業との兼業も可能なことから、村内において通年で飼育される家畜が増加する傾向にある。それにとまって村内にある耕作地も、伝統的作物である麦・豆類や商品作物であるジャガイモの集約的栽培を行うものから、牧草の栽培もしくは単に草地としておくような粗放的な土地利用へと入れ替わりつつある。しかしながらこの地区の従来の農牧業形態は伝統的な文化や生活様式と強く結びついており、観光業にも活用されるべきものである。したがって、農牧業のありかたを見直して農業経営の改善に努めるような組織を立ち上げ、住民が協同により農作物の栽培、出荷を行う事業を進めている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>現時点においてはなし ただし、パキスタンにおける現地調査の結果をまとめて、学会で発表し、論文としてまとめる予定である。</p>	